

# 職場における交通安全指導 Part.13

## 安全な車線変更および追越しの方法

当組合では安全推進項目の一つに「進路変更、追越事故防止」を掲げ、これらを原因とする事故の未然防止の推進を行っています。

組合の事故例でも、直進道路を走行中、急な車線変更をしたり、先行車を追越す際に安全確認が不十分な状態で追越しをしようとしたため、周囲の車と接触、或いは追突したり、されたりする事故は少なくありません。

そこで本号では直進道路における安全な車線変更及び追越しの方法について掲載いたしますので、社内での運転者教育にご活用ください。

事例1：Aは片側二車線道路のセンターラインよりを走行中、走行車線の前方が道路補修工事で渋滞していたため、左側に車線を変更しようとしてハンドルを左に切ったところ、左後方より直進走行してきた乗用車と接触した。

### 〈事故はこうして起きました〉

この事故はAが左車線の走行車の存在に気が付いていたにも拘らず、「相手が譲ってくれるだろう」という気持ちの甘えがあったことと、左ウインカーを出すと同時に、いきなりハンドルを切ったことが直接の原因といえます。

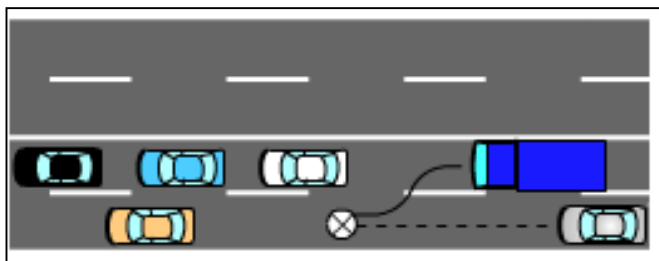
### 〈事故はどうしたら防げたでしょうか〉

進路変更に際しては、走行車両の有無、相手車の位置と速度のチェックを必ず行うことです。その際、車間距離に余裕がない場合は決して無理をせず、

相手車の通過を待って進路変更することです。

車線変更前には早めにウインカーを出して、自車の意思を周囲の車に知らせ、ゆっくりとハンドルを切ります。

相手車に対して、止まってくれるだろうとか、譲ってくれるだろうといった甘えの気持ちは捨てることです。見込みや勘による運転は時として事故発生、重大事故の大きな要因となる場合がありますので、このような運転は絶対に避けてください。



### 追越しの運転手順についての指導ポイント

追越しは、進路を変え加速した上で再び進路を戻すという複雑な運転操作を必要とします。特にトラックは乗用車に比べ加速性、迅速性が劣り、車体も大きいので、前車の前方や対向車線の状況等を十分に確認し“ゆとり”をもって追越しにかからなければなりません。

追越しの運転手順の基本は次の通りです。

追越し禁止の場所でないか、どうかを確認

前方の安全を確かめる（特に、対向車線にはみ出すときは、対向車の動向を確かめる）

バックミラーなどで右側、右斜め後方の安全を確かめる

右側の方向指示器を出す

約3秒後、加速しながら進路をゆるやかに右にとる

最高速度の制限内で、前車の右側を安全な間隔を保ち通過する

左側の方向指示器を出す

追越した車が安全な車間距離をとれるまでそのまま進み、進路をゆるやかに左にとる

合図をやめる